

14062

marching scape

正会員 ○清水郁江*
正会員 ※森 傑**

*. 清水建設
** 北海道大学大学院工学研究科 准教授・博(工)(※設計指導)

marching scape

○ SHIMIZU Ikue*
※ MORI Suguru**

* SHIMIZU CORPOLATION
** Assoc. Prof., Graduate School of Eng., Hokkaido Univ., Ph.D. in Eng. (※ Adviser)

0 設計趣旨

北海道の石狩平野に広がる水田風景は、水平性の強い二次元的な広がりをもっている。どこまでもひろがるようなその風景の状況を、地域の人たちはちゃんと認識し、考えているだろうか。

対象敷地となった農地の際には、全長4km・林帯60~70mもの農地防風林がある。その防風林は、屯田兵による開拓の手が入る明治24年まで、この辺りが大湿地だったころの記憶を伝える樹種(ヤチダモ・ハンノキ)が残っていて、原生を留めているという点で非常に貴重な存在である。しかし、大規模な農地整備(湿地から農地への転換、農業用排水路の整備等)の影響で、土地が乾燥化し、湿性を好む樹種であるヤチダモやハンノキの稚樹が育ってなく、向こう数十年で違う樹種に変わるという研究結果もある。いつも見ている風景がかわりつつある状況を、農家の人、地域の人、将来農業に就く人は把握していない。風景や地域生態系、生業の関係を考えながら、地域の将来のそれらを形成していくことが大切ではないだろうか。

この敷地に、防風林を活かした森の学校、地元の大学のサテライト、田んぼ学校、図書館、産直市場、農家の人の会議室、イベントスペースを提案する。あぜ道や防風林がアプローチとなり、それらを建築化したような細長い建築は、農地と呼応しながらゆるやかに機能がつながり、だんだんと変化する様子を楽しみながら歩く道のような建築である。あぜ道を歩く体験を通して、農の風景を身近に感じ、学ぶ。

1 分析

□ 歴史

- a かつての泥炭地帯_現在も名残の沼が点在する
- b 屯田兵による開拓_明治24年に入植
短冊状の地割(間口30間×奥行333~500間)が整備された
- c 戦後、大規模な農地の開発_排水路や防風林の計画的整備

□ 生態系

- a 土地の乾燥_開拓前の原植生(ヤチダモ、ハンノキ)が
違う樹種に変わりつつある
- b 農地・防風林のネットワーク_動物にとっての貴重な棲みか
マガンの採食地でもある

□ 農業とくらし

- a 巨大スケールの農地_農地は地域の人の生活から切り離された

□ ポテンシャル

- a 防風林、田んぼ、水路は農村のたからもの

防風林は平地の農地として、田んぼは体験学習の場として、水路は生態系保全のきっかけとしてのポテンシャルがある
- b 地域の活動
 - ・ 宮島沼をめぐる市民の活動は、生態系と地域農業のあり方に目をむけている
 - ・ 地元の大学では農業や環境についての市民公開講座を開催している
- c 場所の特質
 - ・ 防風林群の中で最も市街地に近く、生活の動線になりえる。
 - ・ 湿地の痕跡であるクランクをもつ

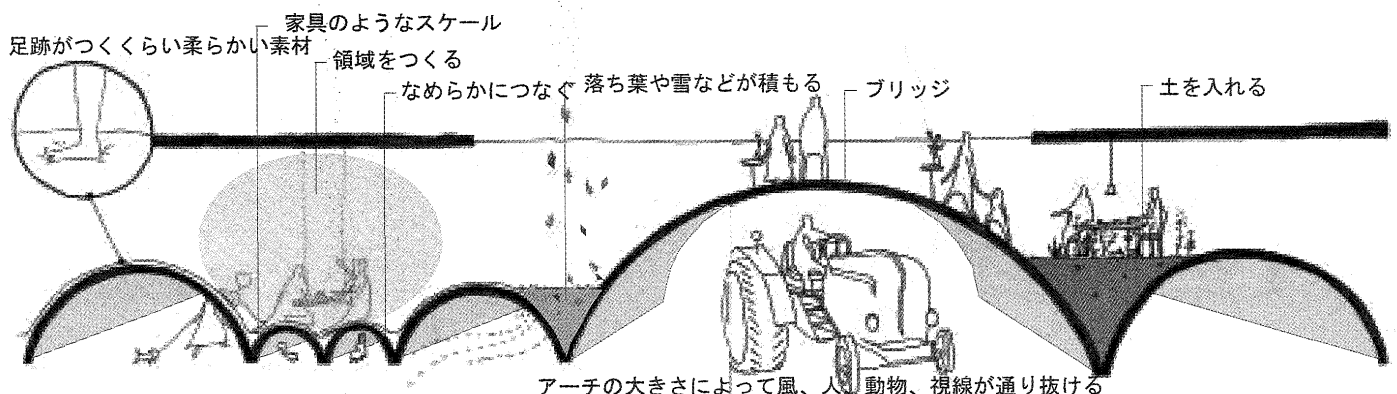
2 デザイン

- a. フォーム_フィルターとしての効果
- b. 素材_風化し、風景になじむ素材
- c. 内部空間

- ・アーチの連続
→2つの方向性
水平性、低層、連続性の維持

- 外壁_レンガ
内部に土を使う箇所もある

- ・一続きの空間ながら、やわらかい文節ができる
- ・凹みの部分に土や落ち葉などを取り入れながらの使い方ができる
- ・家具代わりになり、効率よく空間を使える



所在地: 北海道美瑛市光珠内
 主な用途: 環境学習施設・産直市場
 敷地面積: 351,000m²
 建築面積: 2,720m²
 延床面積: 2,720m²
 キーワード: 田んぼ・あぜ道・防風林・学校

Location: Koushunai, Bibai, Hokkaido
 Main Use: School and Farmers' market
 Site Area: 351,000m²
 Building Floor Area: 2,720m²
 Total Floor Area: 2,720m²
 Keywords: Rice Field, Ridge, Windbreak, School

